

2012年11月15日

現在、三浦市民生活向上会議ボランティア活動推進部会では、ボランティア(市民活動)の振興策として①ヒト(人材育成)②モノ(施設・設備、活動場所)③カネ(活動資金)④情報(収集発信)⑤ボランティアセンターの充実—の5つの柱を想定している。そこで、この想定が、有効であるか否かを実証的に明らかにするためにアンケート調査を実施することとなった。

アンケート用紙の原案を作成した事務局では、被調査者の負担に鑑み、おおよそ10分程度で回答ができ、かつ、興味を引く工夫として「漫画」によるアンケート用紙を試作した。主人公である「ボラ君」の様々な経験を通して、社会問題を発見し、これに関与する様が一種の成長物語として語られていく。それを被調査者が追体験することによって「アンケートに回答する」ようになっていくわけだ。なお、調査用紙(調査票)は①活動未経験者用と②活動経験者用に分け、それぞれに「属性(プロフィール)」と「設問」を設けている。

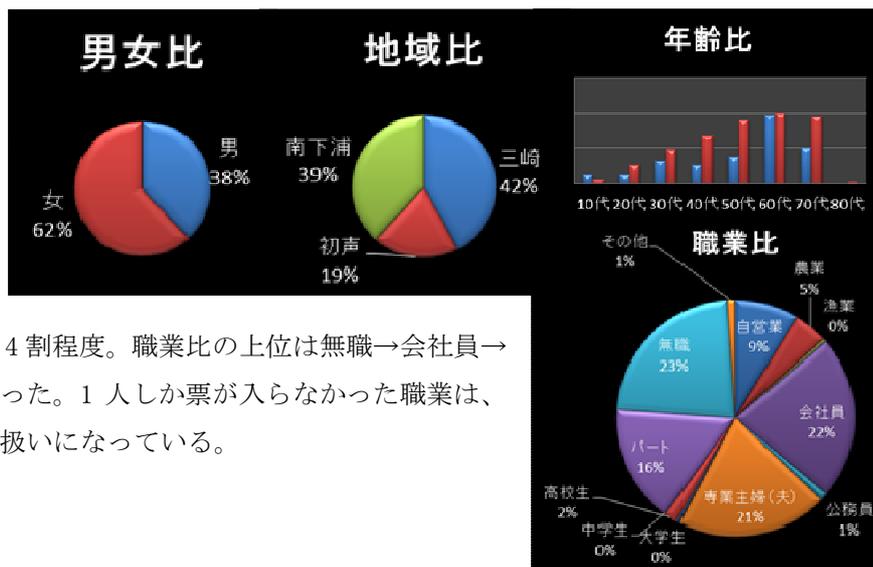
なお、本報告書の被調査者は、三浦市民である。それも調査用紙①の対象となる活動未経験者である。



1 基本的属性

男女比はおおよそ男4:女6。年齢比は60代が男女ともに中心となっている。地域比は初声が2割程度で最も少なく、三

崎・南下浦がそれぞれ4割程度。職業比の上位は無職→会社員→専業主婦の順番に多かった。1人しか票が入らなかった職業は、グラフ上では「0%」の扱いになっている。

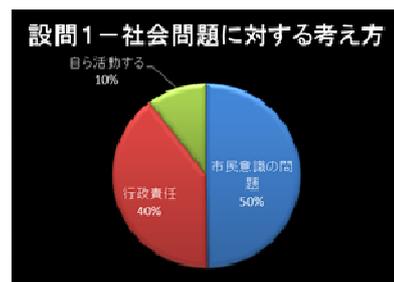


2 設問1—社会問題に対する考え方

地域社会には様々な問題があります。あなたならどうしますか?という設問。

直面する社会の問題に対する意識について質した。この設問の狙いは、地域の課題に対する意識の持ち方が、経験者と未経験者の間で異なるのかをきくことである。本設問において我々は、未経験者に比べると、「自ら活動する」人が多いのではないかと—という仮説を立てている。何らかの課題を発見したとき、これまでの経験から、課題の解決に向けて実際に行動に移す人が、未経験者よりも多いと考えたからである。

結果、経験者・未経験者共に「①市民意識の問題」を選ぶ人が最も多く、その後に「②行政責



2012年11月15日

任」「③自ら活動する」と続いた。この結果は、今までにアンケートをとってきた市役所職員・社協職員・ボラ協の、経験者・未経験者両方の結果全てに共通している。また、「③自ら活動する」を選ぶ人の割合に、差は見られなかった。

ボランティアをする人・しない人の間に、意欲の差は表れないということが分かった。「やりたい」と手を挙げてくれる人以外にも、情報発信や、啓発を試みることで、ボランティア活動の実施に繋がる人もいるのではないかと感じた。

3 設問2－参加形態

仮にあなたが、ボランティア(市民)活動に参加するとしたら？という設問。

この設問の狙いは、どれ位の市民がボランティア(市民)活動に参加したい意思を持っているのかを知ることにある。

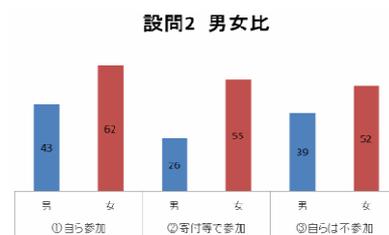
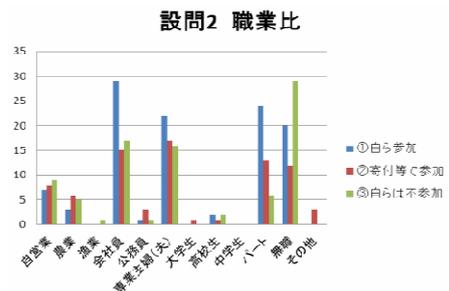
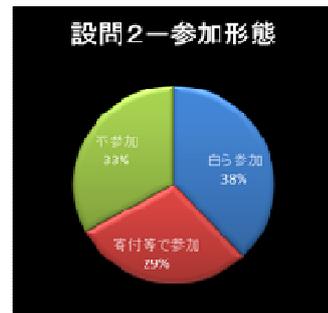
また、年代や性別によって「協力できる範囲」に差が出た場合は、集中的な広報が可能になり、形態は違えどより多くの市民からの協力が得られるようになるのではないかと考えた。

結果、「参加できない」とした回答は33%に留まった。約7割の市民が、直接的にせよ、間接的にせよ「参加したい」意向をもっていることがわかる。問題は、こうした「意欲」をいかにして、実際の活動に結びつけるかであるが、その方策が次の設問で明らかになる。

また、年代・性別による差を見てみた。まず、年齢比は、60代に「①自ら参加する」と答えた人が圧倒的に多かった。そもそも、年代別で見ると60代の回答者が最も多く、市域での活動に「参加したい」という意欲が強い年代であるといえるのかもしれない。また、40代は「①自ら参加する」を選んだ人が多く、「③不参加」と答えた人は少ない。

一方、男女比については、男性・女性共に「①自ら参加」を選ぶ人が多かった。職業比については、会社員・専業主婦(夫)・無職は「①自ら参加」を選ぶ人が多い一方で、「③不参加」を選ぶ人も多かった。しかしパートについては、「①自ら参加」が多く、「③不参加」を選ぶ人は少なかった。

アンケートの結果、意欲があると読み取れるのは「40代か60代のパート・会社勤めの人」ということになる。ボラ協の職業比とは異なる分布になっている。



2012年11月15日

4 設問3－参加意欲

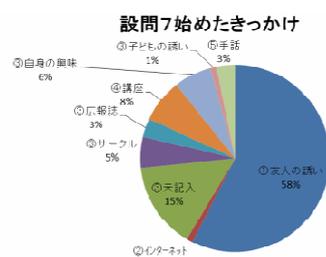
あなたのボランティア活動への興味の度合いをお聞かせ下さい、という設問。

この設問の仮説は、設問2において「参加したい」と回答した人が実際の活動に結び付くには、友人の後押しなど何かきっかけが必要なのではないかというものである。

そのため設問3は、前設問とも大いに関連する。結果、約6割の回答者が、「参加」の意向を示しているにも関わらず「①すぐにでも活動したい」とする回答は、わずか2%に過ぎない。6割を占める当該回答者が「きっかけ」を求めているというのだ。

このアンケートの「②きっかけがあれば…」の挿絵には、友人が後押しをする場面が描かれている。このイメージを持って選択した人が多いことが想像できる。また、現役で活動をしているボラ協へ「始めたきっかけ」を問うたところ、「友人の誘い」が最も多かった。

人的資源を活かしたきっかけづくりが、結果的に新しい人材の発掘に繋がるのではないかと考えられる。



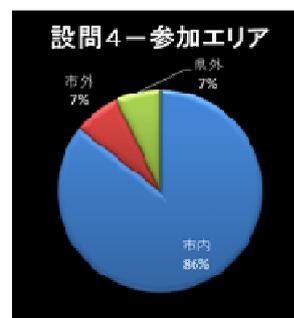
ボラ協のボランティア活動を始めたきっかけ。友人の誘いが最も多い。

5 設問4－参加エリア

あなたなら、どこでボランティア活動をしてみたいですか？という設問。

この設問の狙いは、ボランティアセンターは三浦市のボランティアの充実を図りたいと考えているが、それが市民のニーズと合っているのかを確かめることにある。また、市内でボランティア活動を行いたい人が多いという仮説を立てた。それから、若年層にとっては「災害時ボランティア」などで、市外・県外でのボランティア活動も受け入れられていて、選択する人が他の年代に比べて多いのではないかと。

結果、約9割の人が市内での活動を望んでいることが分かった。若年層の母数の少なさもあがるが、若年層と中高年層での差異は見られなかった。



6 設問5－情報の入手

ボランティア活動について知りたくなったらどうしますか？という設問。

この設問の狙いは、今現在ボランティア活動に結び付いていない人が、ボランティア活動に興味を持ったときに、どのツールを使って情報を得るのかを知ること、その充実性に繋げたいというものである。

2012年11月15日

この設問の仮説は、ボランティア未経験者にはインターネットを用いる人が多いのではないかと、というものである。具体的に「こういうものを(絶対に)やりたい」と定まっていな人は、他の人に頼らず情報を得られるインターネットを使うのではないかと考えた。

結果、「②インターネット」が44%で最も多かった。事務局が、最も活動に繋がりやすいのではないかと考えている「①友人・知人に聞く」は32%だった。

インターネットは手軽に幅広い情報を得られるが、情報の不足している部分の(例えば、地元の中でも最も近いところで「単発のイベントボランティア」を探そうと思っても、その)情報は得られない。一方、現役でボランティアをしている回答者であるボラ協の結果は、「広報誌」を用いてボランティア活動の情報を得るということだった。

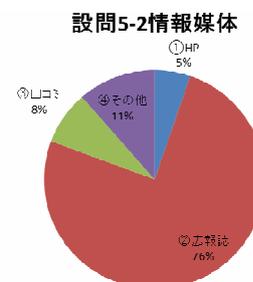
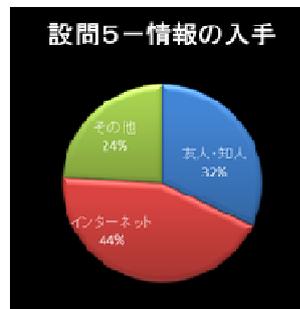
インターネットによる情報収集は、手軽に調べられ、「絶対にやると決めた訳じゃないのに、人には聞きづらい」という思いを持っている人にとって利点がある。しかしながら、近所の情報は出てこないことがある。また、人と結び付かないので、実際の活動には結びつかない・迷っているときに背中を押して貰えないという欠点がある。「断りやすい情報」である。

一方、ボラ協に所属している人のように慣れている人であれば、最も身近で具体的な情報を得たいと考えている為、広報誌を利用するのだと考える。また、口コミ・友人知人の紹介は、「理由なしには断りにくい情報」であるとする。

しかし、未経験者にとっては大切なツールである事には変わりない。また、今後はインターネットを使って情報を得る人が増えるだろう。そのときに、いかに具体的な・想像しやすい情報を載せられるか、いかに幅広い情報を載せられるか。いかに問い合わせしやすくするか。結果、いかに実際の活動に結び付きやすくなるか。整備を進めていく必要がある。

今はボランティアをやりたい!と思ったときに使えるツールにはなっていないと思うが、ボランティアセンターのホームページを整備し始めたのが今年4月で、今現在その効果を測定しているところである。今後はアンケートの結果に基づき、必要な情報を増やし、もっと人々の目に触れるボランティアページを作りたい。

また、インターネットを媒体としても、「断りにくい情報」が得られるようになる工夫があるかどうか、部会内で検討してみたい。



ボラ協がボランティアに関する情報を得る際に使う情報媒体。そのほとんどが広報紙である。

7 設問6-欲しい情報

あなたに必要なボランティアの情報は何か?という設問。

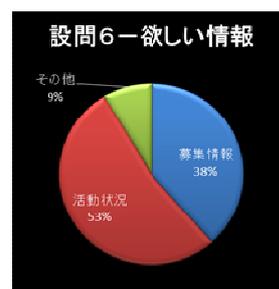
この設問の狙いは、ボランティア未経験者がどの様な情報に興味を持っているのかを知ること

2012年11月15日

にある。ボランティア未経験者・経験者それぞれの欲しい情報を知り、それらを重点的に広めたいと考えた。

この設問の仮説は、ボランティアを始めたいと考えたとき、「他の人がどんなことをしているか」や「ボランティアの始め方」を知りたいのではないかというものである。

結果、「②他の人が何をやっているか知りたい」が過半数を占めた。「①ボランティア募集情報」は38%。どの様なものなのか、自分にもできることなのか、他の人の追体験を通して判断したいのだろう。今後HPなどで、追体験が出来るようなページを整えていきたい。



8 設問7-ボランティアの無償性

ボランティアとお金の関係についてどのようにお考えですか？という設問。

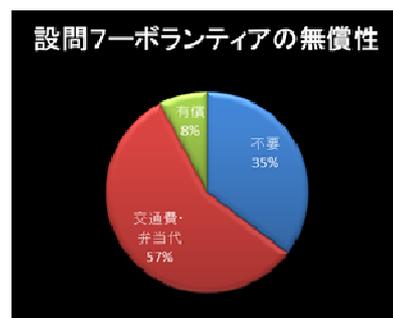
この設問の狙いは、経験者と未経験者の抱く「ボランティアとお金」の感覚の違いを知ることにある。

この設問の仮説としては、未経験者は、ボランティアは無償であるものという価値観が強く、お金を貰うことに抵抗があるのではないかと。しかし、実費は貰えたら嬉しいという思いがあるので、「有償ボランティア」の選択肢を選ぶ人は少ないと考えている。

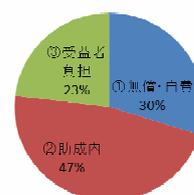
また、経験者になってくると、活動にどの程度の負担がかかるか分かってくる、また、自身の活動を一種の委託事業のように捉えはじめ、周りから貰うお金について価値観が変わり、「貰ってしかるべき・貰ってもいい」という考えに移っていくのではないかと。

結果、「②交通費・弁当代は欲しい」が約6割を占めた。「①全くもらえない(自費でやる)」という意見は、ボラ協・市民経験者で「無償・自費」を選ぶ割合とあまり違いは出なかった。

一方「③有償ボランティアをやりたい」という回答は8%にとどまった。



設問4活動資金の出处



ボラ協にボランティア活動のお金のあり方について尋ねたところ、「無償・自費」を選んだ人は3割程度。

9 設問8-活動に対する関心度

ボランティアについての講座・講習を受けたことがありますか？という設問。

この設問の仮説は、ボランティアをしたことがない人にとって、いきなり講座を受けることは難しく、ボランティア活動実践のきっかけにはなりにくいのではないかと。

ボランティア(市民活動)に関する意識調査結果報告書

2012年11月15日

経験者の中で、講座を受けたことがある人に「(講座の受講が)その後何か活動に結びついたか」を尋ねたところ、「結びついた」と答える人が多数を占めた。経験者にとっては、「どの分野の何を学びたいか」が明確になっていて、今現在行っている活動に必ず役に立つものを選んで受けに行くことができるのではないかと考えた。しかし未経験者にとっては、実際の活動に踏み出すのに、更なる勇気が必要になることが考えられる。

結果、「②興味があるが受講経験はない」と答えた人が約7割を占め、そもそも興味を受講に結び付けられていない現状が明確になった。これでは、「講座を受けても活動に結び付きにくいかどうか」は検証できない。

今後、ボランティア未経験者向けに(最も伝わりやすい「インターネット」での広報を中心に)講座の情報を流してみ、どの程度反応があるのかを探る必要がある。



2012年11月15日

発行/社会福祉法人三浦市社会福祉協議会 事務局長 出口道夫

〒238-0102 神奈川県三浦市南下浦町菊名 1258-3 三浦市総合福祉センター

TEL 046-888-7347 FAX 046-889-1561